

上下水道運営委員会 会議録

(令和2年度 第1回)

1 日 時 令和2年7月28日(火) 9:30~10:35

2 場 所 委員会室(役場 3階)

3 会議の出席者

(1) 委員(出席6名、欠席1名)

出席	永田耕朗 委員長	藤原健祐 副委員長	岡村統正 委員
	横畠美和 委員	眞辺千津子 委員	伊藤みどり 委員
欠席	松浦隆起 委員		

(2) 佐川町(6名)

佐川町長 堀見和道	
建設課	課長 池内伸雄
水道係	課長補佐 山崎幸、係長 中越健一郎、久万澤常晴、大野聖生

4 会次第

(1) 開会

(2) 町長あいさつ

(3) 委員長あいさつ

(4) 諮問

(5) 議事

水道料金の適正化について

- ・ 佐川町水道事業経営計画の概要
- ・ 水道料金の適正化について
- ・ 今後のスケジュール

(6) 閉会

【概要版】

(1) 開会

(2) 佐川町長 あいさつ

(3) 委員長 あいさつ

(4) 諮問

佐川町長 堀見和道から永田耕朗委員長へ諮問（※別紙諮問書）

(5) 議事内容

事務局) 当委員会は、審議の概要をホームページにて公表させていただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

委員) 異議なし。

〔質疑等〕

水道料金の適正化について【資料①～⑧】

・ 佐川町水道事業経営計画の概要

・ 水道料金の適正化について

～事務局説明～

委員) 一般家庭の平均使用量と、その金額はいくらか。

事務局) 佐川町の一般家庭用の1ヶ月分の使用量は、19立方メートルが平均の使用量で、1,929円になります。20%改定案では、1ヶ月当たり390円の増額になります。

委員) 先程の説明の中で、隔月検針で隔月請求になるということか。

事務局) 単純に、考えるとこの倍の額で隔月請求になるということになります。

委員) 結局、このくらい値上げしないと経営が成り立っていかないということか。

事務局) 20年間の事業費をまかなっていくために、まず、この先の10年ですが、浄水施設の整備に多額の費用を要するので、それが始まるまでにある程度、一定の自己資金を確保しておかないとすべてを起債に頼る形になってしまいますので、後年度に負担を残すのではなく、今からみんなで負担をしていただくという考えで、20%の値上げをさせていただく必要があると考えております。

【概要版】

委員) 給水人口は減っていくが、施設そのものは減らせるものではなく、維持・管理をしていくためには大きな資金が必要ということであるか。

事務局) ダウサイジングの必要性からも、中組の配水池・水源がかなり古くなってきているので、中組施設は今後廃止の方向で、中組の配水エリア分は他の施設でまかなえるよう、併せて基幹管路の耐震化を進めています。

委員) 今の説明では、いずれにせよ来年、20%値上げしなければ維持できない、これからやっていけないということか。

事務局) 試算では、供給単価を給水原価が令和3年に上回ってしまうというシミュレーションが出ておりますので、給水原価の方が低くならないければ料金回収率が100%割り込んでしまうこととなり、国庫補助金が受けられなくなるということになります。

委員) 料金改定20%でないと仮定でやっていけなくなると思うが、隔月検針で人件費を削減するのもいいと思うが、支払う側になったら平均2千くらいで、例えば今だったら月2,500円が、2ヶ月に一回で5,000円になると支払いが厳しい人がでてくるのではないか。分割支払いできるのか。その対策は何か考えているのか。ひと月ずつで少ない額なら、「何百円か上がったな」で納得がいくが、2ヶ月に1回で急に倍になると、支払う側としたら急に上がったと受け取るのではないかという思いがある。

事務局) やはり1回にお支払いいただく額が大きくなると、負担が増えたと思われるのは当然だと思いますが、経営側としても一番経費を削減する方法として、検針回数の削減が経費の削減につながるので、どうしても支払いが難しいという方には、分割納付も今後は考えていきたいと思えます。しかし、今の収納の状況であれば、2ヶ月分一括請求もお許しいただけるのではないかと考えております。

委員) 説明を十分にしていないと、自分たちはここで納得しているが、一般の方には、その説明の方法を十分、分かるように対策をとって納得してもらわないと、月にするとわずかに百何円だからというところを強調して言うとか、そんな方法もとっていかないとなかなか大変ではないか。実際は、30%値上げした時もあるが、20%だったと。それと、市内だと、下水道が整備されているところはすごく金額が上がって大変だと。佐川町はそれが無いので、安いからいいという話も聞いているし、そういう例とかも出したりして、納得できる方向にもっていったらいいと思えます。

事務局) 参考にさせていただきたいと思えます。

委員) 検針費用はいくらかかるのか。

【概要版】

事務局) シルバー人材センターに委託して行っていますが、毎月5,000件弱で、月45万円位かかっています。それを隔月にすることで単純に検針の委託費は半分になります。それに伴って請求も2ヶ月に1回にすると、郵送代や印刷代もそれに応じて削減できるのではないかと考えております。年間約250万円程度の費用削減になると試算しております。

委員) 水道料金の支払いの方法として、銀行引き落としの占める割合はどのくらいか。

事務局) 本日、資料を用意していないので確実なことは申し上げられませんが、納付書の送付件数が、ひと月約600件なのでそれ以外の方は、ほぼ口座引き落としをご利用ということになります。90%には届かない程度ということになります。

委員) 割合的には、多いか。

町長) 85～86%ぐらいが口座引き落としで、残りの方600件近くが郵送で支払っていただいているということになります。

・今後の開催スケジュールについて【資料①】

令和2年7月から10月まで、期間中4回開催。

(6) 閉会

委員長あいさつ